

平成21年度鹿児島市立前之浜小学校研究実践について(報告)

1 実践研究主題

基礎・基本の確かな定着を図る学習指導のあり方
～ 国語科における読む力・書く力の育成を通して ～

2 研究の概要

1 研究主題に関して

「読む力」を、「叙述に即して、言葉、文章、段落相互の結びつき等の内容を、目的や意図に応じた的確に理解する力」と捉え、「書く力」を、「目的や意図に応じて、事象と感想、意見などを区別して文章表現する力」と捉えている。相互に表裏一体と言えるこれら「読む力」「書く力」双方の育成を基盤にした指導法の研究を進めれば、基礎・基本の確かな定着が促され、国語科のみならず様々な教科の学習にも反映するのではないかと考え、研究主題を「基礎・基本の確かな定着を図る学習指導のあり方～ 国語科における読む力・書く力の育成を通して ～」設定した。

2 研究の方向性

平成20年度の実践・反省から、前年度の研究テーマを踏襲し、推進していくこととする。「読む力・書く力の双方を育成すること」「伝え合う力(伝える力・聞く力)を育成すること」「児童の学びの力を育成すること」等に重点を置き、「読むこと」と「書くこと」の関連的な指導の充実を図り、双方に共通する言語能力の育成を基盤にした研究を推進することとした。さらに、前年度までの成果を生かし、授業に焦点を当てた研究・実践に努め、家庭学習の充実を推進し、本校の国語科教育の方向性を確立していきたい。

3 研究の柱・仮説と視点

柱1 授業を見直し、充実を図る

仮説:「読む」指導と「書く」指導の関連を図った授業過程の設定を行い、適切な評価と指導の工夫を行うならば、子どもたちは主体的に活動を行い、確かな読みの力・書く力の定着を図ることができるのではないか。

- 視点:① 授業の構成・流し方・・・めあて(課題)の設定、発問・板書・ノート指導、表現の場の設定等
② 評価・・・単元における目標と評価規準の設定
③ 教材・教具・・・児童の実態把握を生かす手立て

柱2 学習環境を整え、確かな力の定着を図る

仮説:学習習慣を身につけるための手立てを工夫するならば、子どもたちは学習内容についての理解を深めることができるのではないか。

- 視点:① 実態・意識調査等の研究・実施
② 教室や校内の設営(生活化の教材・教具)
③ 「読書タイム」の充実、読書指導
④ 学習の躰の定着、児童の学びの力の育成の推進
⑤ 家庭学習の充実:手引きの作成、活用

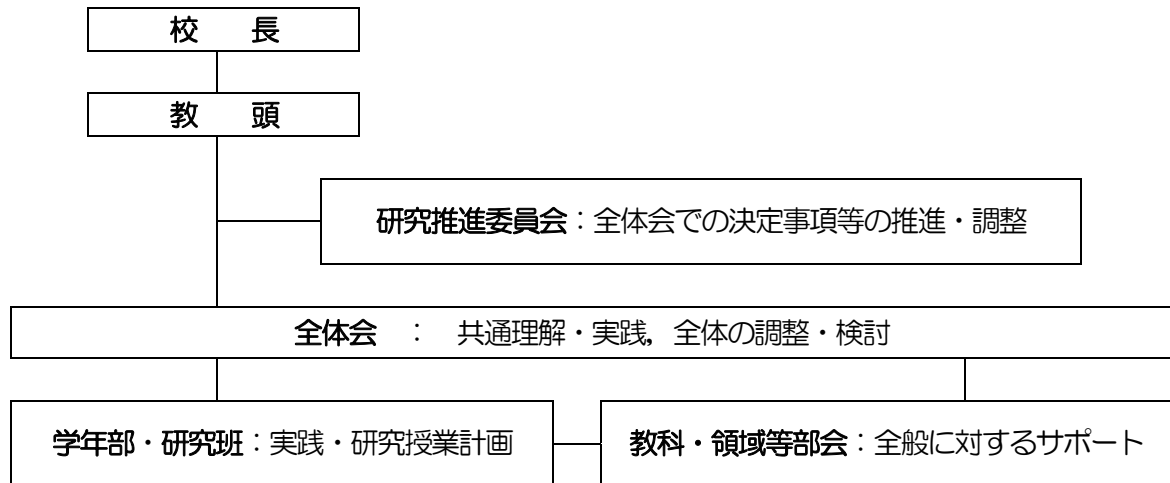
4 研究授業と実践報告

研究班を、下学年部(1・2・3年部)と上学年部(4・5・6年部)の2班と、研究の柱に基づき理論研究班と学習環境班の2班に分け、研究授業の提供と共通実践に関する提案と報告を行うこととした。

3 研究の推進体制

(1) 研究の組織について

① 全体



② 研究班

研究班を，下学年部(1・2・3年部)と上学年部(4・5・6年部)の2班と，研究の柱に基づき理論研究班と学習環境班の2班に分け，研究授業の提供と共通実践に関する提案と報告を行うこととした。

(2) 研究授業の設定

研究の内容から，説明文教材を取り扱った授業に絞って研究を進めることとした。

第1回目の研究授業は6月29日(月)に3年の単元名「まとまりに気をつけて読もう」で行った。

2回目の研究授業として10月30日(金)に5年の単元名「目的に応じた伝え方を考えよう」で行った。

4 研究の実際

(1) 柱1「授業を見直そう」に関して

① これまでの実績を踏まえた実践の継続

ア 各学年の重点指導内容の確認

昨年度の実践の継続として，各学年の「読む」「書く」に関する指導内容を明確にするために，「学習指導要領を基に，各学年の指導内容を「読む」「書く」の技能を中心に整理してまとめた表」で共通理解を図り，指導の充実を推進していくこととした。

イ 本校の基本的な学習過程の設定

基本的な学習過程(「単元の基本的な学習過程」「1単位時間の基本的な学習過程」)について共通理解を図り，指導に生かすこととした。

② 新たな試みとしての研究・実践

研究組織の理論研究班を中心に，仮説の実現を図るために以下のような取組を展開した。

- 1 児童の学びの力の育成の一環として，2学期より「辞書引き学習」に取り組んでいる。
「辞書引き学習について」の説明資料を作成し，学級PTAの際に辞書引き学習のポイントや辞書の選び方などを保護者へ説明した。その後，児童の変容を見るために，以下の取組を継続することとした。
 - ① 月毎にふせんの数を調べる。
 - ② 漢字テストや日記・即文会などの書く場面を設定し，語彙力がついてきたかチェックする。
- 2 教室や校内の設営の充実を図る。 ※国語部，学習環境班と連携
 - 俳句コーナー・俳句ポストの設置
 - ・ 季語の紹介や月毎に優秀な俳句を掲示している。
 - ・ 俳句用紙を教室に常時配置し，俳句を書けるようにしている。
 - ・ 俳句ポストを設置し，いつでも俳句を投稿できる環境作りに取り組んでいる。

- 朝の活動時間「くすの木タイム」の充実
 - ・一人一冊ずつ俳句ノートを準備し、自由に俳句を書きこむことができる。
 - ・月1回、優秀な俳句を「みどりの俳句賞」とし、全校朝会で表彰することとしている。

3 即文会を実施し、書く力の育成を図る。

③ 実践例1：第1回研究授業平成21年6月29日（月）第5校時実施



第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 本と友だちになろう(教材「三年とうげ」「本は友だち」「本のさがし方」光村図書3年上)

2 単元の目標

- お話の展開や表現を楽しみ、友だちと感想を交流して、それぞれの感じ方の違いに気づくことができる。
- 図書館での本の分け方を知り、自分が探して読んだ本について、書き方を工夫して「帯」を作り、友達に紹介することができる。

3 評価規準 ※C-(1)-カ等は、新学習指導要領の指導内容の記号

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
お話の展開や表現を楽しみ、いろいろな読み物に興味をもって読もうとする。 C-(1)-カ	物語のおもしろさがわかるように話したり、感想を述べたりすることができる。 A-(1)-イ,エ	本のおもしろさが読み手に伝わるように工夫して、本の帯の文章を書くことができる。 B-(1)-ア	読んだ本について感想や考えを交流し合い、感じ方に違いのあることに気づくことができる。 C-(1)-エ,オ C-(2)-ア,エ

4 単元について

(1)単元の価値

本単元では、教材文「三年とうげ」や自分が読んだ本について、おもしろいと思ったことを互いに交流したり、自分が見つけたおもしろさが伝わるように帯を作ったりする活動を通して、読書への意欲を高めることをねらいとしている。

教材文「三年とうげ」は、朝鮮半島を舞台とした物語であり、さし絵のおもしろさ、構成のおもしろさ、伝承特有の語りテンポやリズムのよさをもった物語である。この教材文と帯づくりという本のおもしろさの紹介等の学習を通して、友だちの読み方のよさや物語を読むことのおもしろさを知らせ、読書量を増やしたり、幅を広げさせたい。

子どもたちは2年生で「スイミー」や「お手紙」や3年生の「きつつきの商売」を学習し、本を読むことの楽しさを味わっている。また、物語の展開のおもしろさや登場人物の心情の読み取り方を学習してきたことを十分に生かしておもしろさを読み取らせ、友だち同士で感想を交流をさせ、互いの読書意欲の高揚へとつながらせたい。

本単元では、自分の選んだ本の紹介を、帯を通じて2年生にするという目的のもと、まず「3年とうげ」で感じ方を交流させ、互いの感じ方のよさを知らせたい。そしてそのことを生かして自分のえらんだ本のよさの見直しをさせて、自分の紹介したい本の帯を作らせ、本の紹介をさせたい。この学習は、2学期の「場面の様子を想像しながら読もう(ちいちゃんのかげおくり)」へつながっていく。

(2)児童の実態 ※ 省略

(3)指導にあたって

第1次では、司書補と連携を図りながら、実際に本についている帯について紹介したり、教師が見つけた帯を実際に見せたりして、いろいろな国や地域の本のブックトークを行うことにより、児童がいろいろな本に興味をもち、子どもたちの読書の幅がさらに広がっていくようにしたい。本のおもしろさを伝えられるような帯を作る計画を立て、「読む」活動と関連を図った「書く」活動に意欲をもたせておきたい。また、本単元に関連する本を教室に置き、子どもたちがいつでも読みたい時に読めるようにしておきたい。

第2次では、「読む」と「書く」の関連を図るために、最初に教科書63ページの「たいせつ」を読んで、おもしろさを見つけるための視点を確認しておく。登場人物に共感させたり話のすじをしっかりとつかませたりして主体的に読み取らせたい。さらに、話し合い活動では、一人一人が引用などを使って理由を明確にした発表をするなど、友だちと感想を交流することにより、自分の読みを深めたりいろいろな考えがあることに気付かせるようにしたりしたい。その中でお互いの読み方のすばらしさに気づかせていきたい。

第3次では、もう一度本の帯をじっくり見たり、帯づくりを通して自分の思いや気持ちが書き表せるように、書き表し方の工夫についても触れ、いちばんおもしろいと思うことをしぼって示していること、引用を上手に使っていること、呼びかけの言葉や

「」(かぎ)が使われていること、文字の大きさや太さが違うこと、本との配色や絵の効用などについても考えさせたい。できた帯についてはお互いに見せ合い、第4次へと意欲をつなげたい。

第4次では、自分で選んだ本の帯を作り、2年生に紹介するという目的を確認し、これまでの学習を思い出させながら実際に帯を作らせたい。そして最後に読書のしかたについて学習をまとめたり、これからの読書について発表させたりして今後の読書生活の充実を図らせたい。

5 研究の視点から ※ 省略

6 指導計画(全16時間) ※ 省略

7 本時(7/16)

(1)目標

- 「三年とうげ」のお話の中からおもしろいと思ったところや好きな表現を引用し、その理由も含めて「おもしろさ発見カード」を書くことができる。

(2)指導にあたって

- 「つかむ・見通す」過程では、これまでの学習を想起させ、学習の見通しをもたせる。
- 「調べる」過程では、おもしろいと思ったところを引用し、視点をはっきりさせるために、どういうところがおもしろいと思ったのか、その理由も書かせるようにする。
- 「深める」過程では、一人一人の感じ方を大切に、意見の交流を通していろいろな考え方があることを感じさせる。
- 「まとめる」過程では、視点をはっきりさせながらおもしろさを伝えるとわかりやすいことを確認し、次時以降の意欲を高めるとともに、4次での自分が選んだ本の帯づくりでも生かせるようにする。

(3)実際

過程	主な学習活動	時間(分)	形態	指導上の留意点(※評価規準)
基礎 基本	1 「三年とうげ」の音読をする。	7	一斉	・これまでに線を引いてきたところに気をつけさせながら、読ませる。
つかむ 見通す	2 学習計画を確認する。 3 本時のめあてを話し合う。 「三年とうげ」の「おもしろさ発見カード」を作ろう。 4 学習の進め方を知る。	4	一斉	・単元の学習の見通しをもたせる。 ・めあてを確認し、これまで読み取ってきたことをもとに、「おもしろさ発見カード」を作る意欲をもたせるようにする。 ・学習の見通しをもたせる。
調べる	5 「おもしろいとおもうところ」や「心に残る表現」や「好きな言葉」などこれまでに線を引いたところをカードに書く。 6 選んだ理由を書く。 7 ペアで発表し合う。	14	個人 小集団	・P.63「おもしろさの発見」を確認し、書く時の視点をもたせる。 ・どの視点からおもしろいとおもったのかが分かるように、理由を考えさせる。 ※おもしろいと思ったところを引用し、その理由をつけてカードに書くことができたか。 ・自信をもって発表ができるように、ペアで意見の交流をさせる。
深める	8 全体で発表する。 ・発表について、気がついたことを発表したり質問をしたりする。 ・友だちの感じ方のいいところをまとめる。	15	一斉	・友だちの考えを聞かせることによって様々な感じ方や考え方があることに気づかせる。 ※友だちの考えと自分の考えを比べながら聞き、様々な感じ方があることに気づくことができたか。
まとめる	9 本時のまとめをする。 P.63の「おもしろさの発見」に気をつけるとおもしろさを伝えやすい。 10 「まえのはま」で振り返る。 11 次時の学習を把握する。	5	一斉	・本時の学習を振り返り、自己評価をさせ、次時は帯を実際に作ることを知らせることで、これからの学習に意欲をもたせる。

(4)評価

- 「三年とうげ」のお話の中からおもしろいと思ったところや好きな表現を引用し、その理由も含めて「おもしろさ発見カード」に書くことができたか。

8 授業研究から

- ・ 今回扱われた単元は「本と友だちになろう」と題して、教材「三年とうげ」「本は友だち」「本のさがし方」を通して「読む」「書く」の両活動を伴う複合単元である。



授業では、学習計画にある帯作りの活動を視野に入れた読み取りの学習が進められ、「読む」指導と「書く」指導の関連を図った学習過程の設定ができた。

- ・ 子どもたち自身が読みの視点をしっかりもった読みの学習を進める上での教師の指示や助言・支援の在り方に関して意見交換がなされた。今回扱った複合単元は読書単元ということもあり、子どもたちの読書活動の充実につなげるために、「読み」の視点、「書く」の視点をしっかり児童へ提示し、子どもたちの感じ方の多様性を学習の展開の中で生かすことが重要だとの認識で共通理解も図れた。



④ 実践例2：第2回研究授業平成21年10月30日（金）第5校時実施



第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 目的に応じた伝え方を考えよう

(教材「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」 光村5年下)

2 単元の目標

- 文章構成をつかみ、要旨をとらえて、ニュースがどのように作られるかを知り、伝えたいことを伝える方法について興味を深めることができる。
- 伝えたいことをどのように伝えるかをグループで協力して考え、形にして発信することができる。

3 評価規準

読む	書く	話す・聞く
番組作りの大切な点を的確に押さえながら、報道スタッフの願いなどを読み取る。 C-(1)-イ	自分が伝えたいこと、相手が知りたいことなどを考えて発信する。 B-(1)-ア	自分たちの伝えたいことや意図が伝わるように、話の組み立てを工夫しながら、適切な言葉遣いで話す。
自分たちが番組を作るために必要な事柄を時間の順序にしたがって段落ごとに読み取る。 C-(1)-オ	編集作業を通して、書く必要のある事項を整理する。 B-(1)-イ	
	集めた材料を、目的に合わせて整理し、加工して伝える。 B-(1)-エ	
	伝えたい内容を表現するのにふさわしい方法を考える。 B-(1)-オ	A-(1)-ア

4 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、「ニュース番組作りの現場から」と「工夫して発信しよう」の二つから構成されている。

「ニュース番組作りの現場から」は、ニュース番組の特集の作り方についてまとめた文章である。時間に沿って、報道スタッフの役割や情報収集、編集会議のあり方、伝えたい内容の絞込み方等分かりやすく整理されている。その点で本教材は、ニュース番組の作り方に関する情報提供としてではなく、時間列に沿って大事な事柄に注意して読み取る文章としても適している。

本単元では、「ニュース番組作りの現場から」に書かれた内容が、その後の「工夫して発信しよう」の活動のための手引きあるいは解説ともなっており、「ニュース番組作りの現場から」の読み取りが重要となってくる。「工夫して発信しよう」の活動では、受け手にとって意味のある話題をどう取り上げるか、取材のための方法はどんなものがあるか、どういう情報(材料)が必要か、伝えたいことの中心がよく分かるようにするためにどう編集したらよいか、などを考える活動を通して、目的に応じた情報の配列・編集等についての理解を深めることをねらいとしている。

(2) 児童の実態 ※省略

(3) 指導にあたって

本単元の目標を実現していくために次のような点に重点をおいて指導にあたりたい。

第1次では、読みの活動の意欲を高めるために、題名読みの活動から生活経験を振り返ったり、テレビ局見学での学習事項の確認を経て、内容を予測したりする。そして、教材文「ニュース番組作りの現場から」を読み、大まかな内容を捉えさせ、初発の感想から学習計画をたてさせるようにする。

第2次では、教材文「ニュース番組作りの現場から」の読みの活動から、情報発信の企画書作りをする。まず、教材文「ニュース番組作りの現場から」を形式段落毎の中心文を捉えながら読み取りを進め、さらに、形式段落毎に内容を整理して、文章全体の構成及びニュースを人々に伝えるまでの過程をつかませていくようにする。

その後、読み取ったことを生かし、伝えたいことを考える。その際、目的意識や相手意識を明確にし企画書を作ることをしっかり児童に押さえさせ、活動を進めさせる。

第3次では、教材文「ニュース番組作りの現場から」の読みの活動と「工夫して発信しよう」がらから、情報発信までの手順を確認し、取材・編集活動をする。まず、各グループの企画書に基づき、情報カードを活用させ効率よく取材活動を進めさせるようにする。情報カードをもとに構成をさせ、編集活動(まとめる・書く活動)に取り組みさせる。発表の活動では、内容はもとより、それまでの活動のよさにも触れて、認め、賞賛して、これまでの学習の成果を十分味わうことができるようにする。

5 研究の視点から ※省略

6 指導計画(全14時間) ※省略

7 本時(9/14)

(1) 目標

- 自分たちで話し合い、目的に応じて情報を発信する計画を立て、企画書を書くことができる(8・9/14)。

(2) 指導にあたって

- 「つかむ・見通す」の過程では、前時までの学習を想起できるように学習計画表・「ニュース番組作りの現場から」の読み取り表から課題意識をもたせながら、本時の学習課題を設定していく。
- 「調べる・深める」の過程では、目的・相手意識を常に意識させ、「話題」「目的」「情報発信の方法」を考えさせるようにし、実現可能な計画になるよう話し合いをさせる。
- 「まとめる」の過程では、本時の学習内容を押さえるために、もう一度全員で音読をさせる。「まえのはま」の振り返りでは自己評価をさせ、次時の学習につなげていく。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	形態	指導上の留意点(※評価)
基礎 基本	1 漢字の読みの練習をする。	3 分	一斉	・ 漢字のフラッシュカードを準備し、新出漢字の読みの確認をする。
つ か む ・ 見 通 す	2 前時までの学習を振り返る。 3 本時のめあてを知る。 企画会議を開き、取材・編集活動の計画について話し合い、企画書を書こう。 4 「工夫して発信しよう」を音読する。 5 学習の進め方を確かめる。	7 分	一斉	・ 前時までの学習を掲示する。 ・ 掲示してある学習計画表(情報発信の手順)に注目させ、本時の学習内容を把握させる。 ・ 「わたしの特集」というテーマの企画書をもとに、グループごとの企画書を作ることを確認させる。
調 べ る ・ 深 め る	6 企画会議を開く。 ①グループで話し合う。 アイデアを出し合い、ワークシート4の様式に沿い、書きまとめる。 ②全体で話し合う。 企画の概要を紹介し、質疑応答を行う。	25 分	小集団 一斉	・ 目的・相手意識を常に意識させ、「話題」「目的」「情報発信の方法」を考えさせるようにする。 ・ グループごとに計画を紹介させ、実現可能な計画になるよう、意見交流をさせる。 ※ 自分たちで話し合い、目的に応じて情報を発信する計画を立て、企画書を書くことができた

				か。【観察・ワークシート・ノート】
まとめ	7 学習のまとめをする。 企画書に自分が伝えたいこと、相手が知りたいことを考えて、取材・編集活動を進めることが大事である。	10分	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 企画会議の話し合いの内容から、今後の取材・編集活動にいかせるようまとめをする。 一斉読みさせることで、学習した内容を再確認させるとともに、次時の学習の見通しを立てさせる。 本時の学習を振り返り、自己評価させ、次時の学習に意欲をもたせる。
	8 本時の学習範囲を音読する。 9「まえのはま」で本時を振り返る。 10 次時の学習範囲を確認する。			

(4) 評価

- 自分たちで話し合い、目的に応じて情報を発信する計画を立て、企画書を書くことができたか。

8 授業研究から

- ・ 今回扱われた単元は「目的に応じた伝え方を考えよう」と題して、教材教材文「ユース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」を通して「読む」「書く」「話す・聞く」の活動を含む複合単元である。

授業では、「読む」活動を踏まえ、「書く」活動から「話す・聞く」活動へと進めるための企画段階が扱われ、子どもたちは題材や表現方法の設定を事前の希望からグループに分かれ話し合いを行った。簡易(A3, B4サイズ)ラミネートシートを使用し作成)のホワイトボード毎に、企画名、内容、伝える方法等をまとめ、全体で意見交換を行った。



- ・ 「読み」の視点、「書く」「話す・聞く」の視点が児童へ提示され、子どもたちは主体的に活動にしていたようである。しかし、今回、子どもたち自身の意向を学習の展開の中で生かすことが十分にできていたかの点で疑問が残った。「読み」の活動でどのように子どもたちに興味・関心を持たせ、疑問や課題につなげ、次にそれらを集約して「書く」「話す・聞く」の活動でどのように充実させていくか、様々な意見等も寄せられ、各学年での実践(複合単元等を中心に)でも配慮して検証していくことが確認された。



(2) 柱2「学習環境を見直そう」に関して

- ① これまでの実績を踏まえた実践の継続
 - ・ 教室や校内の設営の充実
 - ・ 各学級に国語コーナーの設置(様式等を共通化)
 - ・ 朝の活動の時間「読書タイム」及び読書指導の充実
 - ・ 集会活動等の実施を通じた読書指導
 - ・ 家庭での音読の充実
 - ・ 俳句作りへの積極的参加の促進
 - ・ 即文会の取組
 - ・ 学校図書館との連携：「おすすめの本」(ブックリスト)の作成 等々
- ② 新たな試みとしての研究・実践
 - 国語への児童の関心・意欲の変容を調べるために、アンケートを実施した。

5 研究のまとめ

(1) 成果

- ① 研究の柱Ⅰ：「授業を見直し、充実を図る」から
 - ア 昨年度の実績を踏まえた実践の継続について
 - 単元の指導目標を達成するために、効果的な学習過程、学習形態について研修を深めることができた。

- 様々な言語活動を実践することにより、言語活動を通じて指導目標を達成することの意義を理解することができた。
- 言語活動の中で「書く」活動を充実させることにより、「読み」もさらに深まり、そのことは「話す・聞く」力も伸ばすという成果を得ることができた。
- 一単位時間の中においても「書く」活動を取り入れたことにより、児童の思考が深まり、発表内容をより充実したものにすることができた。

イ 新たな試みとしての研究・実践について

- 「辞書引き学習」に関して

月毎のふせんの数の調査では、一月間の平均で一人当たり24枚のふせんをつけているという結果がでた。個人差はあるものの、辞書引きの習慣化が少しずつ定着しつつあることが伺える。

使い方や意味が分からない言葉があれば、子どもたち自身が辞書を引いてしらべるといふ姿が多く見られるようになり、辞書の引き方を始め、百科辞典や各種資料での調べ方も以前と比べ上手になってきており、波及効果も出てきている。

- 俳句コーナー・俳句ポストの設置、朝の活動時間「くすの木タイム」に関して

いつでも俳句を投稿できる環境作りが整ってきた。俳句コーナーの「季語の紹介」や「月毎に選出した俳句」などの掲示を子どもたち自身が活用して、俳句を作る姿も見られるようになり、生活の中に俳句作りが浸透しつつある。

- 「即文会」に関して

「即文会」の実施にあたり、低・中・高学年別の「作文の書き方」「作文メモ」の資料等を活用した作文指導の充実も図られ、その後の作文活動に生かすことができた。

② 研究の柱Ⅱ：「学習環境を整えよう」から

ア 研究実践の推進について

- 「朝の活動の時間」の充実に関して

火曜日設定の「読書タイム」：学級文庫に「読書タイムの約束」を掲示し、子どもたちが落ち着いた雰囲気を読めるよう改善をした。

木曜日設定の「読み聞かせ」：年度途中からであるが、学校支援ボランティアの方々にもお手伝いいただき、実施することができた。

イ 新たな試みとしての研究・実践について

国語への児童の関心・意欲の変容を調べるために、以下のような項目でアンケートを2回実施した。

それぞれの項目について（よくがんばっている・がんばっている・あまりがんばっていない・がんばっていない）の4段階で自己評価をする。

- 1 教科書を声に出して読む。
- 2 登場人物の気持ちや場面の様子を考える。
- 3 登場人物の気持ちや場面の様子を考え、文章に書く。
- 4 説明文を段落ごとに読み取る。
- 5 説明文を段落ごとに読み取り、文章にまとめる。
- 6 物語文や説明文、詩などを読んで、自分の考えや意見、感想などをもつ。
- 7 自分の考えや意見、感想などを文章にまとめる。
- 8 グループで意見交換をする。
- 9 みんなの前で自分の考えや意見、感想などを発表する。
- 10 友だちの考えや意見、感想などを聞く。
- 11 読書をする。
- 12 ことばの意味調べをする。
- 13 漢字を覚えて使う。



- 14 日記や作文を書く。
- 15 詩や俳句を作る。
- 16 読書感想文を書く。
- 17 学習したことを生かして〇〇を作る。※〇〇には、各学年の言語活動で作ったものが入る。
- 18 国語が好きになりましたか？ ※この項は2回目に付加 とても好きになった・少し好きになった・少し嫌いになった・とても嫌いになった、の4段階で自己評価

《2回の実施の結果からの考察（本校児童の傾向等含む）》

- 全体的に低学年ほど意欲が高く、学年が上がるにつれて意欲が薄れている傾向が見られる。
- 友だちの意見を聞くことはどの学年も意欲が高い。しかし、自分の意見や感想を発表することは、高学年になると意欲が下がる傾向が見られる。
- 読書への意欲はどの学年も高い傾向にある。
- 物語的文章の読み取りよりも、説明的文章の方が意欲が高い傾向が強い。20年度21年度の研究実践の対象・内容が説明的文章を中心としていた影響と考え、成果がある意味残せたといえる。5・6項の設問で、数値的にもだいぶ向上した。
- 言葉の意味調べは、どの学年も意欲が高い。2学期から取り組み始めた「辞書引き学習」の成果もあるものと推測する。12項の設問で、数値的にもだいぶ向上した。
- 「書くこと」に関しては、日記や作文を書くことには意欲が高いが、読書感想文を書くことに対する意欲が低い傾向にある。

年度初めと比較して、向上や改善がほとんど項目で確認された。2回目に付加した18項の設問において「とても好きになった・少し好きになった」の回答が96%を占め、児童の関心・意欲の喚起を促す取組が功を奏していることが伺える。年間を通して実態（傾向）を把握することができ、さらに今後の指導に生かしていくこととしたい。

(2) 今後の課題

昨年度の研究成果の継続的取組と今年度の新たな取組を確認しながら、本校なりの国語科教育の方向性が見い出すことができた。今年度から取り組んだ「辞書引き学習」は今度の展望も見通しが立ち、さらなる充実を図り成果を残したい。取組における課題は多岐に渡るが、児童の意識調査や日々の評価や学力検査等に成果として表れてきていることが確認された。

今後は他教科における課題と成果も見極め、実態把握を進める中でどのような取組ができるのかも探るとともに、これまでの取組も精選して継続していくことも重要である。

6 おわりに

授業に焦点を当てた研究・実践は、これまでの研究の成果の継続的取組と新たな取組を確認しながら一步一步進められて、一定の成果が現れてきているように思う。

これまでの研究の成果を日々の授業に生かし、全校態勢で発達段階に応じた継続的取組を推進し、子どもたちに確かな学力の定着を図っていきたい。